

美しい九州づくり懇談会

設立趣意書

平成17年2月22日

平成15年7月策定の「美しい国づくり政策大綱」においては、社会資本整備における景観への配慮不足を反省し、美しい国づくりに向けた取り組みの基本的考え方が示された。その中で国の役割は、「地方公共団体や住民による取り組みへの支援や制度づくりなどの環境整備が国の中心的役割であるが、加えて、特に優れたものをつくり出すというような先導的役割を果たすことも重要」と記されている。

大綱の発表以降、全国的な動きとして、景観緑三法の制定を始め景観評価（アセスメント）システムの試行や各事業毎のガイドライン策定など様々な支援・制度づくりの施策が展開され始めている。

一方、九州地方整備局においては、河川、道路、港湾、公園、官庁営繕などの社会資本整備において、これまでも景観に配慮した取り組みを行ってきたが、それは、個々の事業においての努力であり、厚みと広がりをもった取り組みとはなっていない状況であった。

今後は、九州ブロックの中で、基本的な方向性の下、景観に対し、なお一層の取り組みを実施していくことが重要と考える。

本懇談会は、「九州の自然、歴史、文化などを背景として形成された景観像（九州らしい景観像）」と「今後の九州地方整備局が取り組む景観形成方針・方策」について議論を進め、九州の社会資本整備における景観に関する基本的方向性（九州の景観形成方針と景観整備の取り組み）について提言としてまとめることを目的に設立するものである。